

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

木目金を用いたジュエリーの表現

博士前期課程

芸術研究科 造形表現専攻 美術領域

桑名洋敏

主査 塚本洋守
副査 渡邊雄二
高森誠司

作品制作の背景

木目金の名前のように木目のような見た目を。また、加工の方法によってその他にも様々な表現を浮かべるそれは、金属でありながら生き物のような柔らかさや温かさ、時には不気味さすら感じた。

江戸時代に刀装具として栄え、廃刀令後に一度は廃れてしまった技術であるが、新たな金属ジュエリーの表現方法として用いれないかと考えた。

研究目的

身につけるものである刀装具として一度栄えた技術を新たな時代の身につけるものとして再興させる。また、その表現の多様性をジュエリーに用いることで金属ジュエリーの長所の一つである耐久性を保持したまま表現の幅を広げる。

研究方法

銀と銅を積層させた木目金の地金それぞれに対して多種多様な方法での加工を試し、模様の違いを比較。制作したいジュエリーの表現に合わせて得られた結果から洗練を繰り返す。

研究概要



まとめ

木目金の仕組みとしてはそう難しいものではない。しかし、それをどう加工するかによっての変化は単体の金属よりも尚強い。

金属工芸の技法は奥が深く、木目金に関してだけでも今回の研究だけでは全てを理解することは叶わないが、今後ジュエリーに活用、技術を再興する上での確かな足がかりになった。

指導教員コメント

桑名君のテーマは伝統的な木目金技法を現代的な感覚でジュエリーに活かすことである。ジュエリーのモチーフは紅葉とイチヨウの葉で造形されている。ネックレスは肌にフィットするように少し湾曲している。大胆な表現にもかかわらず、繊細な造形はスキルも高く評価できる。

塚本洋守